

# 公認会計士「研修出向制度」 体験者リポート

vol. 8 取材・文／南山武志 撮影／大平晋也

新日本有限責任監査法人が2010年にスタートさせた、一般事業会社への会計士「研修出向制度」。本制度を活用し、自己成長に励む公認会計士たちのリアル・リポートをお届けする。



アスクル株式会社



新日本有限責任監査法人

## 迷いに迷つた末 締め切り間際に応募

—監査法人への入所は2004年。

どんな企業を担当したのですか?

功刀 最初は、福島事務所に勤務しました。自分にとっては縁もゆかりもない土地。とにかく人手が足りなくて事務所全体が忙しかったですね。そんな事情もあって、県内の上場企業、金融機関、小売、学校法人等々、業種としてはいろいろ一度に担当しました。

当」といつても、胸を張ってクライアントのもとに行くという感じではなかったですね。資格を取るためにあんなに勉強したのに、社会に出たら知らないことばかり。最初のうちは自分の無力さに歎がゆい思いの連続でした。

—印象に残る仕事は?

功刀 地域に根ざした比較的規模の小さなクライアントの監査は、大企業と違つて組織の全体を見ることができるし、きつかつたけれどやりがいがありました。当時から地方経済は非常に厳しい環境で、クライアントは決算をまどめることが多い変わってしまい、数字が大きく変わってしまう判断一つで数字が大きくなっていますから、こちらもそれなりの責任を感じて臨まなければいけない。駆け出しの身にとって、プレッシャーは相当なものでした。そんな案件を重ねることで、自分が鍛えられたの

いけるのかとか。

最後は、「ハイリスク・ハイリターン」に賭けてみようと、締め切りのギリギリになって応募しました。出向している同僚に話を聞こうと思えば聞けたのですが、これだけは自分で決めたないと、あえてそうしなかった。ここまで人生で、最も迷つた、そして最も重大な決断だったと思っています。

## 「幅広い業務を」「希望が叶う

—希望する業種、企業などはあったのですか?

功刀 いえ、特には。ただ、できるだけいろいろな経験をさせてくれる会社に行きたいという意思は、伝えました。ある日「アスクルに決まりました」というメールがきました。さつそ

くホームページを開くと、広範な事業を展開つつ、何をやっている会社なのか、すぐにイメージが湧いたんですね。まずは安心しました。

—いろいろな経験ができる会社でしたか?

功刀 当社の経理は、部長以下7名の体制なのですが、社の事業を6分割して各自が担当しています。同時に、税務とか固定資産とか売り上げとかの会計の軸で役割分担し、やはりそれぞれの担当者を決めています。いわばクロスマトリックスの組織。そのクロスした「マス」を、3カ月から半年ぐらいです。私自身、すでにいくつかの事業、業務を担当させてもらいました。

監査法人では無縁の、例えば経費精算みたいなルーティンワークも、他の部員と同じようにやります。僕にとってはものすごく新鮮で、「期末までに終えられるのか」という、いい意味でのプレッシャーも久々に感じましたね。

—会計士だということで、頼りにされることが多いのではないですか。

功刀 様々なアドバイスを求められることもあります。今はむしろ僕のほうが同僚や事業部の方を質問攻めにしている感じです(笑)。わからないことは、恥ずかしがらずどんどん聞くようになります。幸い皆さんやさしくて、社風もオープンなので、とて

も助かっています。

監査法人にいる時は、クライアントの経理の方と話していく中で、疑問が完全に氷解とまらないこともあります。でも、ここにいると完全に納得するまで調べることができます。これも貴重な経験だと感じています。

—決断は正しかったようですね。最後に今後の抱負をお聞かください。

功刀 アスクルに移ってちょうど1年。ここまでではイメージどおりの仕事ができました。ただ、一人前の社員になるには、まだ努力が足りないと思っています。今一番感じている課題は、難しいけれど大切な会計にかかる事柄を、現場の人方が納得感を持つて理解できるように、やさしく伝えること。そのスキルを何としても身につけておきたいですね。

## 3年間の出向期間中に、幅広い業務にかかわり、自分の足跡を残したい

功刀 紀英・33歳

アスクル株式会社 経理

Norihide Kunugi  
Profile  
1979年6月11日 山梨県甲府市生まれ  
2003年3月 慶應義塾大学経済学部卒業  
2004年11月 公認会計士第二次試験合格  
2004年12月 新日本有限責任監査法人入所  
2011年7月 アスクル株式会社へ出向  
家族構成=独身

は事実だと思います。その後、東京に転勤になつて2年間、今度は大企業を中心に担当しましたが、福島での4年半は、本当にかけがえのない経験で優秀な先輩方にとてもよく指導していただきました。

—出向制度に応募した動機を教えてください。

功刀 身近にこの制度で出向した人がいましたし、事業会社への出向自体にいたしました。

興味は持っていました。福島で様々な業種を経験したこともあるって、企業活動の現場をもつと知りたいという気持ちが強かったです。浮かんでくるわけです。ずっと監査法人をベースに仕事をしようと考えていましたから、3年間も監査から離れて大丈夫かとか、会計士の前に社会人として未熟な自分が、上場企業でやって

## 出向受け入れ企業の声

事業変化を見越した最適な経理の仕組みを、一緒に構築してほしい



アスクル株式会社  
経営管理本部 経理 部長  
上野啓之氏

事業拡大に伴って人員が不足し、人材を中途採用しようと考えていた時に、この出向制度を知った。新日本さんに話を聞くと、「エース級を出すから鍛えてほしい」との力強い言葉が返ってきた。それが功刀君を受け入れたきっかけだ。彼の出向の志望動機で印象的だったのは、「IFRSなどに限らずいろいろな業務に携わりたい」という決意表明。それは「専門性を生かしつつ、幅広い仕事をしてほしい」という、我々のニーズに合致した。実際、彼には即戦力としてIFRS関連とか開示関連とかにかかわってもらっているが、他の部員と同じように日常業務もこなす。フットワークが軽くコミュニケーション能力も高い彼は、期待以上の働きをしてくれている。

監査法人の仕事は、財務諸表ができ上がった後のプロセスに関するものだ。残りの2年間で、それ以前の作成のプロセスをしっかり身につけて帰ってもらいたいと思っている。監査法人の中に、彼のような「事業会社の思い」を知る人間が増えることは、お互いにとって極めて有意義なことだと確信している。